

幼・小・大教育対談

塚本真紀園長・池田 節小学校長・蓮花一己学長

テーマ「幼稚園・小学校・大学の教育連携を通した学び」



池田小学校長・蓮花学長・塚本幼稚園長（左から）

総合学園として教育連携を通して育まれることについて、どのようにお考えでしょうか。

塚本 まず何よりも教員の意識が変化しました。これまで隣り合う学校が何をしているか知る機会も少なかったのですが、互いの学校園を理解し、学び合えるようになってきたことがとてもよかったです。今、大学とは、「食育」を通じた連携を深めています。園児と一緒に参加した保護者は学生さんの姿も見て「いい学生さんですね」と興味をもっていただき、小学校だけではなく、中高、大学にまで関心をもつていただけるのは幼稚園としてもメリットだと思います。

池田 小学校の上級生がじやがいも掘りや絵本読み聞かせなどで園児と接したとき、普段見せない成長した姿を見せる子どもが多くいます。学園の中で異年齢交流することで子どもの自己有用感が育まれる貴重な経験につながっています。また、花火大会やバザーに参加してくれた大学生に同じ学園という親近感があり、子どもたちは安心して接することができます。

蓮花 昨年、文学部日本文化学科と現代生活学部居住空間デザイン学科の学生が「奈良の昔のくらし」をテーマに

帝塚山学園は、第4次中期計画の重点目標として、「教育連携の強化」を掲げ、幼稚園から大学までが一体となってその推進に取り組んでいます。学園広報誌T-timeでは、教育連携対談第3回として、帝塚山大学の蓮花一己学長、池田節小学校長、塚本真紀幼稚園長の3人が「幼稚園・小学校・大学の教育連携を通した学び」をテーマに話しました。

（聞き手 教育連携室次長 奥田秀紀）

小学校で授業し、小学生に大変興味をもってもらいました。大学での学びを小学生にわかりやすく教えるという貴重な体験は、学生のその後の学びにもつながっています。

今年度の教育連携で最も印象に残る取組はどのようなことでしたか。

塚本 大学生が幼稚園の給食の献立を考えてくれています。保護者のアンケートから知りましたが、学生さんがちが子どもたちにもっと喜んでもらえるように取り組み、細かい注文にも柔軟に対応してくれたことが印象に残っています。継続することが力になっています。また、小学校の先生が幼稚園に来てくださり、保育について感想も聞かせていただくなど、幼小の教員間の連携が強まり、安心して園児を小学校に送り出させています。

池田 今年度、印象に残る取組は、小学校とつながろうと学生が自発的に提案をし始めてくれたことです。小学校農園で幼小とじやがいも掘りをした大學生の学生サークル「てづかファーム」の学生から「給食の材料として使ってほしい」と提案を受け、そのことが実現しました。さらに、餅つきを手伝い

池田校長「温かい学園として、最後まで育て上げる連携」



たいという現代生活学部こども学科の学生の申し入れもあり、日々の教育連携の延長上で、総合学園だからこそできることです。

蓮花 いろんな場で学生も子どもたちとかかわることができて喜んでいます。今春、幼小教員を養成する教育学部が誕生します。学園内で学生と子どもとのかかわりをさらに発展させていきたいと思っています。

今後、新しくどんな連携に取り組んでいきたいとお考えですか。

塚本 職場としての幼稚園を理解してもらえたうれしいです。学生が預か

り保育の手伝いを通じて、子どもや教員の姿を見て、この園で働きたいと思う機会になっていただけたらと思います。

池田 学生ボランティアによる「学習支援」に取り組んでいきたいと思います。授業の中で困っている子や取組が遅れている子を学生が授業の中で支援してくれると助かります。一人の担任だけではケアに限界があり、学習支援は教員間の要望もあります。子どもにとつても他校の学生ではなく、同じ学園の学生という安心感があり、学生に生きてくると思います。

蓮花 本学の学生が帝塚山幼稚園でインターナンシップを経験することができます。学生の理解は一層促進されるとだと思います。また、学生同士が複数名でペアを組みチームを作って学習支援に取り組むこともいいかと思います。心理学部では県内で子どもの学習支援を通してアセスメントを行なっています。

池田 専門的知識をもって子どもを支援してもらえたからありがたいことです。

蓮花 新しい教育学部を核にして、全学的に幼小と関わっていきたいと思っています。小学校での英語教育、情報化社会全般で求められるリスク管理な

どを専門とする教員もおられ、そこに学生を関わると面白いと思います。そのアプローチを考えています。

池田 情報処理能力、セキュリティ、プログラミングを総合的に教える情報科の授業に学生に入ってもらえたらいですね。これからは、どんな先生でも情報科を教える立場になっていくと思います。

蓮花 学生が実際に小学校で教えてみると、自分の至らないところがわかる、勉強になります。

塚本 幼稚園の保護者には、将来役立つ英語やプログラミングをというタイプと、子どものときにしかできない体



塚本園長「学園内の相互理解、結束力を高める教育連携」



蓮花学長「教育学部を核に全学での教育連携で幼小支援」

蓮花　地域とのかかわりが大学の大きな力になっています。「実学の帝塚山大学」をスローガンに学生が地域での学びを通じて、社会人として活躍できる人材を育成していくたいと思います。

池田　お預かりしたお子さまを最後まで責任をもって育て上げることが教育です。少子化が進み競争力が問われる中で、社会から選ばれ続ける、持続発展できる学園であり続けるためには、2歳児から大学までを有する総合学園の施設の中で、教員の人的資源を使つてその強みを發揮し、温かい学園として世の中に受け止めてもらうことだと思います。

蓮花　地域とのかかわりが大学の大きな力になっています。「実学の帝塚山大学」をスローガンに学生が地域での学びを通じて、社会人として活躍できる人材を育成していくたいと思います。

根っこを鍛える、人間力を育てることをトータル的に実践しているというアピールが学園の強みになっていくと思いますが、2年後の学園創立80周年へ向けた抱負をお聞かせください。

塚本　長い歴史の積み重なった学校・学園を大事にしていかねばなりません。保護者もおられ、二極に分かれています。蓮花　確かに保護者のニーズへの対応は必要です。英語は国際的な知識やネットワークをつくるコミュニケーションツールであり、情報もコンピューター処理だけではなく、情報の収集や活用を通して世界を理解し、社会で生きていく力が育成されます。

蓮花　大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています。18歳人口の減少は深刻な問題であり、2021年度は114万人を割る見込みとなっています。そのため、学生募集は大学にとって大きな課題であります。また一方では経済のグローバル化やIoTやAIに代表される第4次産業革命とも称される技術革新もめざましいものがあります。また、地域社会では高齢化が進んでいます。また、地域社会では高齢化が進み、大学に対するニーズもより強くなっています。このような状況の中、帝塚山大学は、実学の帝塚山として変化する時代に選ばれ続ける大学であり続けるために、単なる資格や学力だけではなく、実社会で課題を発見し解決する力が求められています。その

蓮花　地域とのかかわりが大学の大きな力になっています。「実学の帝塚山大学」をスローガンに学生が地域での学びを通じて、社会人として活躍できる人材を育成していくたいと思います。

蓮花　大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています。18歳人口の減少は深刻な問題であり、2021年度は114万人を割る見込みとなっています。そのため、学生募集は大学にとって大きな課題であります。また一方では経済のグローバル化やIoTやAIに代表される第4次産業革命とも称される技術革新もめざましいものがあります。また、地域社会では高齢化が進んでいます。また、地域社会では高齢化が進み、大学に対するニーズもより強くなっています。このような状況の中、帝塚山大学は、実学の帝塚山として変化する時代に選ばれ続ける大学であり続けるために、単なる資格や学力だけではなく、実社会で課題を発見し解決する力が求められています。その

帝塚山大学の特色とこれから展望について、お伺いします。

帝塚山大学の特色とこれから展望について、お伺いします。

帝塚山大学の特色とこれから展望について、お伺いします。

最後に、帝塚山大学で身に付けてほしい力はどのような力でしょうか。

蓮花　社会人として自立できる力です。学生には、大学の専門的知識を活用し、主体的な学びや地域の人たちとのコミュニケーションを通じ、自立した社会人として活躍できる力を身に付けてほしいと思っています。